

ご 挨拶

團藤重光先生は、1935(昭和 10)年に東京大学を卒業された後、東京大学教授、最高裁判所判事、東宮職参与、宮内庁参与等を歴任されてこられました。その一方で、死刑廃止運動や少年法改正反対運動にも関与されるなど、リベラルな知識人としての気骨を示されてもおられました。長らく刑法学や刑事訴訟法学などの学術の発展に尽くされたばかりではなく、判例法の展開や立法への参与など、様々な分野において、多大な寄与をされてこられました。先生の作り上げてこられたご業績は、深いばかりでなく、幅広い領域に及んでおります。プライベートでも、先生の交友関係は、内外の著名人に広く及んでおられました。

團藤先生は、4万冊を超える書籍をはじめ、所属されていた大学や審議会などの各種資料、ノート、原稿、日記、手帳、写真、絵画、書簡類など、文字通り多種多様なコレクション(團藤文庫)をお持ちでありました。先生は、生前にこれら一切の團藤文庫につきまして、龍谷大学に寄贈される意思を示されておられました。このご意思に従い、去る2012(平成24)年12月までには、團藤文庫の本学への搬入がほぼ完了いたしました。

貴重な研究資料として團藤文庫を公開し、将来にわたり広く利用していただきたいとするのが、私たちの願いでございます。本学矯正・保護総合センターにおきましては、この間、文庫の調査・整理作業を行って参りました。その結果、團藤先生は、研究や教育、社会活動のみならず、ご自身の私的生活に関する資料までも克明に遺され、その内容も極めて詳細な記録となっていることが明らかになってまいりました。それゆえにこそ、團藤文庫の整理・保存・分類、そして目録作成には、まだ長い年月が必要であることも自覚せざるを得なくなりました。研究資料として利用に供する時期の目処は、未だたないのが現状でございます。

しかし、そうは申しましても、寄贈を受けた者として、そろそろ團藤文庫の内容の一端を披露すべき時期が来ていることも事実でございます。こうしたことから、日本更生保護学会第3回大会開催の機会にあわせ、本展示会を開催することとした次第でございます。なお、「わが心の旅路」とは、團藤先生の御著書のタイトルにちなんだものでございます。

本展示会開催にあたり、多くの方々のご助力、ご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

2014年12月

龍谷大学矯正・保護総合センター長
福島 至